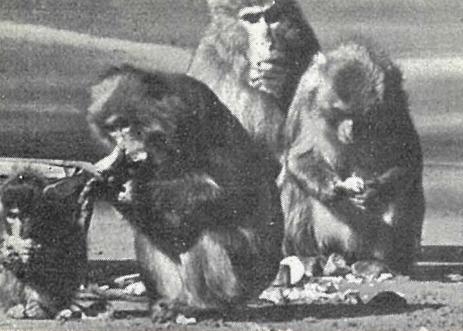


1954, 5-6

国立近代美術館 フィルム ライブラリー



No. 22

## 月例映寫会について

国立近代美術館では、フィルム・ライブラリーで内  
外古今の優秀映画の収集保存とその活用に努力いたし  
ております。今回は「大正期の画家」展の期間中、月  
例映寫会として、短篇映画の最新作三本を、月・水曜  
日を除く毎日二時より上映いたします。

### ニホンザルの自然社会 二巻

(文部省学術映画シリーズ6)

企画 文部省大学学術局

研究者 京都大学教授 宮地伝三郎

外 共同研究者

製作 三井芸術プロダクション

霊長類というむずかしい言葉がある。これは、人、  
直立猿人、類人猿、及び猿に與えられた分類学上の名  
前で、日本にいる霊長類といえば、われわれ人間と、  
そして日本の特産種であるニホンザルだけである。

日本では人間の次に高等な動物、そしてあらゆる点  
で人間に近い動物であるこのニホンザルが、いつたい  
どんな社会を作り、どんな生活を営んでいるかとい  
うことは、今まで明らかにされていなかった。このたび  
京都大学教授 宮地伝三郎博士を中心とする霊長類研  
究班の研究により、始めてこれらの点が明らかにされ  
たので、文部省では、その成果の一部を映画に収め、  
広く内外に紹介している。

ニホンザルは、青森県を北の境として、南は鹿児島  
の屋久島にいたる各地に分布しているが、サルたち  
は、とりわけ深くけわしい山の中に住んでいるので、  
その生態観察は困難をきわめた。しかし研究者たちは  
一九五一年の夏、宮崎県の幸島で、餌を使ってサルを  
浜に導き出すことに成功し、きわめて近い距離から、

彼等の生態を詳細に観察することができるようになった。それから数か月の後には、大分県大分市高崎山の  
群も、地元の人々の手で同じような状態になった。こ  
うして二つの野外の研究場ができ、研究は進められ  
た。まず、一匹一匹のサルを覚えこみ、群れのサルた  
ちの戸籍簿を作つて、彼等の間にどんな社会的な交渉  
があるかを調査し、群れの社会的な仕組みを調べた。  
また、彼等がどのようにして群れの中で成長してゆく  
かを追及した。こうして始めて明らかになった野生ニ  
ホンザルの社会の構造と彼等の社会生活をこの映画は  
とらえており、ここに本映画の第一の意義がある。

映画の内容は三段に分れている。最初は、二〇匹か  
らなる幸島の群れの構造、つぎには約二四〇匹が一団  
となつて生活している高崎山の群れの構造を紹介し、  
第三には、二つの群れから拾いだしたサルたちの生活  
の実態、多種多様な表情や、ゴドモたちの遊び、さま  
ざまな社会的な交渉、それから外敵に対する群れの共  
同的な行動などを集めた。そして、遊牧者であるサル  
たちが、秩序ある行列を作つて、尾根から谷へ、山の  
食物を求めて移動して行くシーンで、この映画は終つ  
ている。

映画の中に、幸島の一匹のコザルが、イモを洗つて  
食べる場面がある。このコザルの仕草は、次第にはか  
のコザルに伝わつてゆき、今では洗わないとイモを食  
べないサルが四一五匹でいる。これは、われわれの  
社会にひとつの文化が発生し、それが次第に伝播され  
てゆく過程と果してどうちがうのだろうか。これは  
一例であるが、とにかく彼等の社会には、サル以下の  
動物たちには見ることのできない非常に発達した多く  
の機能があるようである。幸島と高崎山の二つの群れ  
が、どう発展してゆくか、これは研究者たちにとつ  
て、今後の興味ある研究課題の一つである。

(文部省大学学術局学術課提供)

## 鎌倉美術 二巻

企画 東京国立博物館  
製作 三井芸術プロダクション

脚本 三井高孟

演出 野間清六

撮影 小村健二

解説 徳川夢声

「上代彫刻」―「桃山美術」に引き続いて三井芸術  
プロダクションが東京国立博物館の企画の下に製作した  
美術映画ですが、このように日本美術史映画の各論的  
な作品が大成して行くことは、美術鑑賞や教育的観点  
からも非常に意義あることといえましょう。

この映画は、源平盛衰の戦乱のあとの焦土に力強く  
咲き出した鎌倉時代の美術の代表的なものを紹介する  
と共に、この時代の美術の主調をなす写真と力の表現の  
背景となつてゐる時代の精神を描くことに、重点が置  
かれています。同じ戦禍のあとに立つわれわれが、後  
の世に残す新しい文化を生み出すべき現代に対して、  
鎌倉美術の示唆するものを探ろうとすることも製作の  
意図といわれます。

### 日本美をもとめて Art of Japan 三巻

製作 U.S.I.S 映画  
フランシス・ハール

この映画は、在日米大使館と米岡広報機関が、日  
米兩國文化の交流に役立てる目的で作つたものです。  
伊勢神宮・桂離宮等の建築、川合玉堂氏の日本画、千  
宗室氏の茶道、松本幸四郎氏の歌舞伎、梅若万三郎氏  
の能、浜田庄司氏の陶芸、棟方志功氏の版画等代表的  
日本芸術を、その真髄を探求しようとするアメリカの  
一青年芸術家の心に映る日本芸術の印象というかた  
ちで紹介しています。